



# やまゆり



## ◆共に前進を!

理事長 藤本欣司



コロナ禍が子どもたちにまん延する中、工夫を重ねてスカウティングを続けている皆さん、そして変わらずにご支援をいただいています皆さまに心より感謝を申し上げます。

活動がままならない状況ですが私たち神奈川連盟のスカウト数は昨年度末の人数を超えることができました。(指導者を含む加盟員総数では2月初時点 7,102 人で昨年度末比△9 人です) 人とのかかわりが制限される中、体験を基本とする私たちの運動への期待を実感しています。

本年8月には第18回日本スカウトジャンボリーのサテライト会場を川崎市東扇島で開設します。この会場には外国隊や全国のスカウトを迎え約1000人の参加者で5泊6日のキャンプを行います。また、会場外でも各国がジャンボリーサマーを実施し、スカウトの大きなチャレンジと友情を育む夏にします。

神奈川連盟は本年1月に一般社団法人を設立し、公認される団体としてボーイスカウト運動を通じた責任ある社会への貢献のための歩みを進めました。

私たちは、ちかいを胸におきてを実践し、思いやりを持ち人のために行動できるスカウトが育つよう共に前進します。

## ◆「日本ボーイスカウト神奈川連盟」が法人化されました

私ども神奈川連盟は2022年1月11日に「一般社団法人日本ボーイスカウト神奈川連盟」として法人登記を済ませ、本年度末を以て法人に移行することといたしました。

その目的や内容をご説明いたします。

### 法人化の背景と目的

日本ボーイスカウト神奈川連盟は、現在「任意団体」という立場で運営されています。勿論「総会」や「理事会」を開催し、「監事」による監査の下健全に運営されていますが、その運営の健全性を将来にわたり継続する為、法の定める要件を満たし公的に認められた団体として法人化いたしました。

具体的に変わる事項として、現在の任意団体ではできない団体名での「契約行為」ができるようになります。例えば現状銀行口座を団体名では開設できず、(組織名や役職名が付いてはいますが) 代表者個人の名義で口座を開設しています。よって、万一その代表者個人に何らかのトラブルがあった場合、代表者名義で開設している銀行口座に影響が及ぶことも考えられます。「法人名義」で銀行口座を開設できれば、個人のトラブルが口座に影響することはありません。

また、篤志家が「自分の土地・建物をボーイスカウト活動で有効利用してもらいたい」と申し出られても、現在は団体での契約がで

きませんが、法人格を持てば貸借契約や、場合によっては寄付を受けることもできるようになります。

年度末には財務諸表を公開することが必要になり、社会的な信用の向上も期待されます。

2008年12月、いわゆる「公益法人制度改革」の一環として「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律」（以下「一般法人法」という）が施行されました。公益財団法人ボーイスカウト日本連盟でも各県連盟に対し法人格を取得するよう推奨してきました。現在では「東京連盟」、「愛知連盟」、「静岡県連盟」、「熊本県連盟」が一般社団法人となっており、「沖縄県連盟」、「栃木県連盟」、「大分県連盟」等は別形態の法人を選択しています。

#### 法人化の留意点

神奈川連盟の法人化にあたって留意したことは「極力現在の組織や運営を維持しながら法的枠組みを当て嵌める」ことでした。つまり、組織や会議体、取り決め事項等を大きく変更することなく法人に移行することを目指しました。勿論、一般法人法の定めるところに従い、変更しなければならない部分に関しては慎重に議論を重ね、現在の内容を踏襲しながら移行することを目指しました。

例えば、現神奈川連盟総会の議決権者は加盟団を代表する者と県連役員（名誉役員、事務局長を除く）、地区コミッショナーですが、法人化後も同様に決めました。当該議決権者は一般法人法のもと「社員」と呼称され、従前の「県連総会」は「社員総会」の位置付けとなります。

#### 法人化の手順について

神奈川連盟の法人化に際しては、2021年4月と10月の2回、オンライン形式にて団委

員長他の方々に法人化説明会を開催いたしました。その上で、2021年11月に、新型コロナウイルス感染拡大防止の為書面による臨時総会を開催し、神奈川連盟の非営利型一般社団法人への移行を決議致しました。

2022年1月11日に「一般社団法人日本ボーイスカウト神奈川連盟」を設立登記し、4月からの活動開始の準備をしています。任意団体としての神奈川連盟の活動は、2021年度末を以て終了し、2022年4月1日から法人に移行します。

#### 今後に残されている作業・課題

神奈川連盟の諸規則は、一般法人法の定めるところにより、「法人の目的・事業・組織の基本」等を「定款」に定め、登記して公開しています。「定款」には、簡潔に含めなくてはならない内容が定められていますので、現行神奈川連盟諸規則の内「定款」に定めることができないものについては別の規程として整備すべく検討作業を続けています。

2022年5月15日（日）には、任意団体としての「県連総会」を開催し、2021年度の事業と決算報告を行い「日本ボーイスカウト神奈川連盟」の終了を宣言します。引き続き「一般社団法人日本ボーイスカウト神奈川連盟」の2021年度事業と決算報告、2022年度事業計画・同予算、役員改選等の審議をいただく予定です。

71年の歴史の上に、新たな歩み始める神奈川連盟を引き続きご支援いただきますようお願い申し上げます。

※「定款」は、現在改訂作業を進めている「神奈川連盟ホームページ」で公開する予定です。

## ◆「第18回日本スカウトジャンボリー」

日本スカウトジャンボリー (NSJ) は、「スカウトの祭典」として、原則4年に1度開催されてきました。第1回は1956年8月に長野県軽井沢町で開催されました。そして「第18回日本スカウトジャンボリー」が2021年8月、「東京都海の森公園」を会場として開催される予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で開催が見送られました。

## 日本(スカウト)ジャンボリー開催一覧

開催回	期間	会場
第1回	1956.8.2-6	長野県・軽井沢
第2回	1959.8.6-10	滋賀県・饗庭野
第3回	1962.8.3-8	静岡県・御殿場
第4回	1966.8.5-9	岡山県・日本原
第5回	1970.8.6-10	静岡県・朝霧高原
第6回	1974.8.1-6	北海道・千歳原
第7回	1978.8.4-8	静岡県・御殿場
第8回	1982.8.2-6	宮城県・南蔵王
第9回	1986.8.2-6	宮城県・南蔵王
第10回	1990.8.3-7	新潟県・妙高高原
第11回	1994.8.3-7	大分県・久住高原
第12回	1998.8.3-7	秋田県・森吉山麓高原
第13回	2002.8.3-7	大阪府・舞洲スピーツアイランド
第14回	2006.8.3-7	石川県・珠洲市りふれっしゅ村
第15回	2010.8.2-8	静岡県・朝霧高原
第16回	2013.7.31-8.8	山口県・山口市きらら浜
第17回	2018.8.4-10	石川県・珠洲市りふれっしゅ村
第18回	2022.8.5-10他	分散開催(神奈川サテライト会場)

「スカウトジャンボリー」は4年に1度ボーイスカウト年代を主たる参加者として開催される訳ですから、「ボーイスカウト」として参加できるチャンスは一生に一度しかありません。そこで日本連盟で種々検討を重ね「開催時期を1年先送りし、地域ごとに新型コロナウイルス感染状況を踏まえ、感染対策を十分に講じた上で、密を避けるべく分散して開催する」ことになりました。

日本連盟では、全国各ブロック(各「地方」)に「サテライト(衛星)会場」の設置を呼び掛

けましたところ、①北海道・東北ブロック(宮城蔵王)、②関東ブロック(茨城県:高萩)、③関東ブロック(埼玉県:秩父)、④関東ブロック(神奈川県:川崎市東扇島等)、⑤九州ブロック(熊本県:阿蘇)が名乗りを上げました。

日本スカウトジャンボリーの大きな目玉でもある「ジャンボリー大集会」は東京都大田区で開催されることになり、各サテライト会場とオンラインで結び、「ジャンボリー大集会」の時間を共有することになっています。環境の劇的変化に対し、自分たちの持てる力を結集して対応するところがいかにもスカウトらしいではありませんか。

その他多くの県連盟では、「県連盟会場」等を設置して18NSJに参加します。その他にも、各団・各隊が自ら計画した夏季野営の形態でジャンボリーに参加する「ジャンボリーサマー」、或いは、各県連盟の代表スカウトが一堂に会して開催される「代表スカウトキャンプ」といった新しい枠組みが今回新たに設けられました。

「ジャンボリーサマー」は、「日本一プログラムへの参加」や「野営生活」、「信仰奨励プログラム」等日本連盟が定めたプログラムを盛り込んだ上で夏季野営を計画し、各県連盟承認の上実施することで「ジャンボリーに参加した」ことが認められるというものです。

日本連盟は、そのホームページ上に「18NSJ特設サイト」(<https://18nsj.scout.or.jp>)を開設して最新情報を発信していますので、是非ご確認下さい。

## 「神奈川サテライト会場」について

神奈川連盟では、川崎市の協力を得て下記の通り「神奈川サテライト会場」を設置します。概要は次の通りです。

- ① 期間: 2022年8月5日~10日

- ② 会場:川崎市東扇島東公園(主会場・野营地)、川崎マリエン、川Qホール&スタジアム
- ③ 参加予定者数:1,200名(神奈川参加隊:800名、他県連等参加隊:200名、大会運営スタッフ:200名)
- ④ 主会場となる「東扇島東公園」は、羽田空港間近の「多摩川河口域」にあります。国土交通省の「広域防災拠点」として整備された場所で、想定される津波発生時にも活動できる標高が確保されていますが、神奈川連盟では万が一に備え隣接企業施設から「緊急時の避難場所提供協力」の同意を戴いています。
- ⑤ 東扇島東公園内には「人口海浜」があり、筏競争・ビーチフラッグ等の海プログラムも計画されています。
- ⑥ 東扇島東公園は、朝夕風通しの良い場所ではありますが、強烈な夏の日差しを遮る樹木が殆どない平坦な公園ですので、基本的に屋外プログラムは午前中に開催することとしています。早朝時間帯の有効活用を図る為、通常の夏季野営よりも活動開始時刻を1時間程前倒しする予定です。
- ⑦ また、「川崎マリエン」の体育館や会議室等を借用した屋内プログラムも種々用意し、強烈な夏の日差しを避けたプログラムの充実も図っています。
- ⑧ 川崎市役所傍にある「富士通スタジアム」は、アメリカンフットボール専用スタジアムとして有名で、幾つかのプログラムを開催すると共に、隣接する「川Qホール」のシャワー設備を会期中借用することになっています。
- ⑨ 3つの活動拠点、「東扇島東公園」-「川崎マリエン」-「川Qホール&スタジアム」間は

シャトルバスで繋ぐ予定です。「川崎駅」からバス発着場となる「川Qホール付近」までは徒歩10分強の距離です。

- ⑩ 日本連盟が主催する「ジャンボリー大集会」は、8月7日(日)の夕方から東京都大田区総合体育館で開催されますが、東扇島東公園から現地まではさほど遠くないので、神奈川サテライト参加者は現地へ乗り込み「ジャンボリー大集会」に「生参加」することを予定しています。

尚、神奈川サテライト会場の参加費は「26,000円」を予定しています。この他日本連盟に支払う「18NSJ参加費:2,000円」が必要です。

※「神奈川サテライト」の詳細情報については、神奈川サテライト専用ホームページ

「<http://www.scout-kanagawa.org/18nsj/>」をご覧ください。

## ◆「隊運営者の集い」実施報告

「きれい事で勝負出来る社会を」と川廷講師～SDGsを基本から学ぶ「隊運営者の集い」～

令和2年度から4年度にかけて段階的に学校現場へ導入された学習指導要領の総則には、「持続可能な社会の創り手となることができるようにすること」と明記され、学校教育の中に「SDGs(持続可能な開発目標)」が本格的に組み込まれた。日本連盟でも、ホームページに「Scouts for SDGs」のコーナーを作り、関係するプログラムを紹介している。一方で、「Creating a Better World」として、1世紀以上も世界中で活動しているスカウト運動に携わる指導者にとって、SDGsで2030年までに実現を目指す「17の目標」の多くは、スカウト活動で実践されているという意識もあり、改めてSDGsについて基本的なことから学ぶ機会は多

くなかった。

このため、神奈川連盟組織戦略委員会では、スカウト指導者がSDGsについての理解を深める機会が必要と考え、令和3年度の「隊運営者の集い」のテーマにSDGsを選び、神奈川県SDGs推進担当の顧問でもある川廷昌弘さん(博報堂DYホールディングスグループ広報・IR室CSRグループ推進担当部長)を講師に迎え、令和3年11月27日にオンラインでの講習を行い、64人が参加した。

川廷さんは、SDGsについて「目指す『17の目標』など中身は、何一つ新しくない。すべてを束ねて一つのゴールにしたという方法論が新しい」と説明。神奈川県内を含めて各地の若者たちがSDGsに関わっている事例を紹介しつつ、「大人たちは、義務教育で学んだ子どもたちに『この地域のSDGsは何か』と問われて答えられるようにしてほしい」と述べ、「きれい事で勝負出来る社会を作ろう」と参加した指導者に訴えた。

この日の講演は、「SDGsで自分を変える、未来が変わる」と題して、SDGsの前身とも言えるMDGs(ミレニアム開発目標)などからの歴史的経緯を説明。川廷さんは「17の目標」のアイコンに添えられた言葉が、国連採択時点では国連の公用語に日本語がないことから、分かりやすい日本語の策定が必要と、国連広報センターのみなさんと相談をして「質の高い教育をみんなに」(目標4)や、「つくる責任、つかう責任」(目標12)などを一緒に作ったという。

また、神奈川県で自身に関わって進めてきたことなど日本政府や自治体の取り組み、企業のSDGs経営の事例なども紹介しつつ、茅ヶ崎市に住むご自身もSDGsな暮らしを実践していることも語った。

### 『裏切る大人になってはいけない』

最後に、新学習指導要領のSDGsを解説した後、新聞社と協働で進めた「169のターゲット」の日本語化のプロジェクトでは、応募の7割が中高生からだったと、若者の参加意欲が高いとした。「SDGsは、どこの誰とでも共有出来るコミュニケーションツール」としつつ、「SDGsは2030年までの賞味期限付き。次世代にはもっと先がある。彼らが次のゴールを作る」と指摘。「直球ストレートのきれい事は、未来のためにやること。我々が裏切る大人になってはいけない」と、スカウト指導者に檄を飛ばして講演を終えた。

質疑では、学校教育やスカウト活動のような地域、企業との連携の可能性について問われ、川廷さんは「よい事例はなかなかないが、子どもたちが自然とふれあうノウハウがあるスカウト活動と、企業とのコラボもプログラムに出来るのではないか」とした。

また、「17の目標」や「169のターゲット」を達成する具体的手法についての質問に対しては、「SDGsは、ゴールは設定しているが、どうやって達成するかは決めていない。自分たちで読み解いて、皆で考える。誰がやるのかも、子どもたちだけでも、大人が手伝ってもいい。SDGsがユニークなのはそこ」と話し、発達年代に応じたスカウト教育への展開の親和性を感じさせた。

### 主体的な取り組みの必要性を理解

参加した指導者からは、アンケートで「今までバラバラだった知識の整理がついた」、「SDGsが大変身近に感じられるようになった」、「自ら主体的に取り組む必要があることが分かった」、「自分自身、スカウトに伝えることが待たなしということ」、「SDGsがコミュニ

ケーションツールだということがよく分かった」、「神奈川県で多くの取り組みが行われていることは勉強になったし、誇りに思えた」などという感想が寄せられ、満足度は5段階で4.7と高評価だった。

川廷さん自身は、子どもの頃、スカウト活動に参加はしていなかったが、実家の目の前には水野正人日本連盟理事長の出身団の拠点だった芦屋スカウト会館があったという。当時、熱心に活動しているスカウトの様子をよく見ていたといい、講演後に「今回このような形で関わられたことを嬉しく思う」というコメントを寄せてくれた。

4年2月には、日本連盟が令和4年度からの教育規定改正を公示し、SDGsのスカウト活動プログラムとも言えるEarth Tribe(アース・トライブ)を、世界環境保護バッジ(パンダバッジ)の後継として本格的に展開するとしており、参加した指導者にとって事前学習のよい機会ともなった。(中川和之 県連組織戦略委)

### ◆県連「わくわく自然体験あそび」実施報告 ◀みなと地区では9個団が展開▶

みなと地区では、2021年10月から2022年1月にかけて、9個団がワクワク自然体験あそびのプログラムを展開しました。

10月24日、横浜第61団は「お芋ほりであきを満喫しよう!」と題した活動を、いつもの瀬の森で行い、40人の子供たちが遊びに来て、スカウトと一緒に8つのゲームを楽しみました。

10月31日、横浜第43団は本牧山頂公園で「逃走中 ボーイスカウトから逃げ切れるか? ランフォーザミッション 逃走中」と題して、参



加者やカブリーダーがボーイ隊のスカウト(ハンター)に追いかけられ、最後は追いかけてまわすというゲームで楽しく遊びました。

11月21日は3個団がワクワクのプログラムを行いました。横浜第88団は、「縄文人になろう!」と題して、縄文時代のことをスタンプで



説明し、クイズも行った後、縄文の気分になる貫頭衣姿になって、弓矢で遊んだり、粘土をこねて食器を作ったりしました。

横浜第99団はいつものみずき広場で、「不思議の森のたんけん」を開催。32家族、子ども45人、大人36人が集まり、追跡記号を見つけながらの市民の森へプチハイクト、みずき広場でのどんぐり工作などを楽しみました。



横浜第116団は、本郷台中央公園と飯島市民の森で展開し、約70人の子どもたちが参加しました。モンキーブリッジや滑車、崖のぼり、ツイストパン作り、バードコール作り、ハンモック・テント体験、VS隊によるクロスワードラリーと、盛りだくさんなプログラムで楽しく遊びました。



11月28日には、2個団が実施。横浜第122団と横浜84団が合同で、「ちびっこ探検隊(大岡川の源流を探せ)」と題して、円海山や大岡川の源流をハイキングしながら、パチンコなどのゲームもして遊びました。



横浜第115団も舞岡公園で、「ぼくらのひみ

つきちへあそびにおいでよ」を開催しました。18家族22人の参加があり、ゲームや蜘蛛の巣、暗夜行路などを展開しました。

2022年1月16日には、横浜第96団が戸塚区の小雀公園で、「みんなの冬のミニ五輪」と題して、冬の五輪にちなんだヘンテコなネーミングのゲームに、地域の子どもたち30人が参加しました。タイヤを使ったゲームではカブがまき結びを伝授していました。



ズに体験して頂けたようです。

多くの参加者から、野外での様々な活動は貴重な体験であった等の高い評価を頂いており、また、各団数名の入隊者を得たことから、募集イベントとしても大きな成功を収めています。



### 《湘南地区》

湘南地区では、次の4団が実施しました。逗子第1団(11/14)、藤沢第18団(11/24)、藤沢第6団(11/28)、藤沢第20団(12/19)

各団、プログラムはそれぞれ異なりますが、BVS、CS世代を主なターゲットとし、ボーイスカウトらしさを盛り込むことを念頭に、工夫を凝らした楽しいプログラムを用意していました。ボーイスカウトらしさという観点から、各団で大型工作物の体験を実施しており、特にモンキーブリッジはどの団でも好評でした。

体験に参加した一般の児童は十数名から四十数名、その保護者が参加児童の同数プラスα、自団のスカウトが十数名と、大人数のイベントとなりましたが、例年実施している地区スカウトラリー等と同様に、複数のブースを順番に巡回していくシステムをうまく使い、対人距離を確保しつつ安全にスムー



### 《県央地区》

2021年自然体験あそび実施団をご紹介します。

綾瀬第1団は11月7日に「蟹ヶ谷公園であそぼう」を半日型にて実施しました。

蜜を避けるために、受付時間に幅を持ち、ブーメラン工作や段ボールそり、お菓子釣り、ゴールボールなどポイントラリー形式の6つの野外ゲーム。



20組募集の所、大変多くの申し込みがあり、後日の体験となった方もおりましたが、参加したこども37名は笑顔の体験会となりました。

相模原第10団は11月23日に木もれびの森にて「トレジャーハンター」を半日型にて実施しました。VS隊スカウト企画の6つの冒険を乗り越えて森の秘宝を入手するポイントラリー形式の野外ゲームは、体験参加者51名が4班に

分かれ、各班長・次長をBS 隊スカウトが担当、森の中でターザンロープ、暗夜行路、木のペンダント作り、タワーダム、立ちかまどを使った焼きマシュマロを体験しました。スカウトが中心として活躍している姿を通じて体験会参加者・保護者が活動に関心を持っていただき、体験会後の見学会から入団につながることを期待して体験会を展開しました。

◆R3 (2021) 年度【富士章受章者】紹介

令和3年度「富士章」受章者6名の皆さん。

	地区	団号	氏名
	横浜地区	横浜第92団	秋山 悠
	プロジェクト『名称』・「テーマ」		
	『You Tuberへの道』 ～障害を持つ弟とともに～		
	取得した「技能章」	ハイキング章	観察章
	地区	団号	氏名
	横浜地区	横浜第92団	遠藤 廉
	プロジェクト『名称』・「テーマ」		
	『僕が君の耳になる』 オンライン「手話講習会」等の企画実施		
	取得した「技能章」	ハイキング章	観察章
	地区	団号	氏名
	みなと地区	横浜第65団	岸浪 晴馬
	プロジェクト『名称』・「テーマ」		
	「森林保全活動」 団活動場所の保全活動		
	取得した「技能章」	ハイキング章	観察章

	地区	団号	氏名
	みなと地区	横浜第107団	二宮 瑠星
	プロジェクト『名称』・「テーマ」		
	『一人登山に挑戦!』		
	取得した「技能章」	ハイキング章	観察章
	地区	団号	氏名
	湘南地区	藤沢第6団	齊藤 美雪
	プロジェクト『名称』・「テーマ」		
	「SDGsの理解と実践」 SDGsに関する調査と実践		
	取得した「技能章」	ハイキング章	ハイオアリング章
	地区	団号	氏名
	西湘地区	秦野第2団	酒井 康佑
	プロジェクト『名称』・「テーマ」		
	「自団活性化」 団本部備品の製作を通じて		
	取得した「技能章」	ハイキング章	観察章

日本のスカウト最高の栄誉である「富士スカウト」となられた皆さん。本当におめでとうございます。皆さんの努力を称えと共に、近い将来スカウターとして益々活躍されることを期待しています。

=====

日本ボーイスカウト神奈川連盟 広報紙 『やまゆり』  
題字 元連盟長 津田 文吾 (当時神奈川県知事)  
発行 令和4年(2022年) 3月10日  
発行人 日本ボーイスカウト神奈川連盟理事長 藤本欣司  
編集人 神奈川連盟組織戦略委員会 委員長 境 紳隆